



ふれあい

特集号
Vol.16



山梨に魅かれて
心癒される
永遠のふるさとが、ここにある
俳優 市毛 良枝さん

Challenge Yamanashi
チャレンジ山梨行動計画策定

平成20年度当初予算
「暮らしやすさ日本一の県づくり」
に向けて

さまざまな分野で働く
県職員数と給与の状況

やまなし歴史探訪「時を今につなぐあの日」



ふれあい

特集号
Vol.16

平成二十年三月三十日・山梨県広聴広報課発行 〒400-0185-01 甲府市丸の内丁目六の二

山梨県立文学館

やまなしの施設紹介

Yamanashi
Prefectural
Museum
of Literature



穏やかな春の日は、
心地よい静寂に包まれながら文学にひたる。

穏やかな春の一日、静寂に包まれながら、ゆったりと文学に触れてみるのはいかがでしょう。山梨県立文学館は、豊かな緑に囲まれた芸術の森公園の中にあります。常設展では飯田蛇笏など山梨出身の作家をはじめ、山梨ゆかりの樋口一葉、太宰治など、さまざまな文学者の作品や生涯を紹介。作家の息吹が感じられる原稿や遺品などが数多く展示されています。

4月26日から6月22日にかけては「芥川龍之介の手紙 敬愛する友 恒藤恭へ」と題した企画展を開催します。恒藤は国際法と法哲学を専門とし、大阪市立大学初代学長も務めました。芥川とは旧制第一高等学校の同級生で、芥川が生涯にわたり敬愛した友人です。一高卒業後は別の道を歩みましたが、盛んに書簡を交わし、芥川が亡くなる直前までそのやりとりは続きました。

今展では、芥川から恒藤に送られた書簡約50通を展示。青春時代の犬失恋の悩み、小説家としての出発点から活躍期における文壇の中での意識、そして友人への真摯な思索など、芥川の思いが赤裸々につづられています。ほかにも芥川の前稿や下書き、手帳、また恒藤の日記やスケッチなど300点以上を紹介。若き日の芥川の苦悩と、終生変わることのなかった友情の軌跡をたどります。

さらに常設展、企画展を見て興味を抱いた作家について、もっと知りたいと思った時は、ぜひ閲覧室を訪れてみてください。閲覧室には一般的な図書館では所蔵していない本や雑誌なども多くあり、所蔵数は約27万冊。貸し出しはしていませんが、入手困難な貴重な作品も、実際に手にとって見るすることができます。



Column

静かなたたずまいをみせる茶室

そしんあん
「素心菴」

文学館のある芸術の森の一角に、茶室があるのをご存知ですか。俳人飯田龍太氏が「素朴で素直な心」という意味を込め命名したという「素心菴」です。レンガ積みの建物の中に一歩足を踏み入ると、そこは厳かな雰囲気あふれる数寄屋造りの茶室。茶道の精神を重んじ、露地や外待合もしつらえた本格的な茶室です。普段は開放されていませんが、年に数回茶席が設けられます。茶席はどなたでも気軽にお茶をいただくことができますので、ぜひ特別なひとときを楽しんでみてください。



企画展の魅力を語る学芸員



information

>>開館時間
午前9:30～午後5:00
(入館は午後4:30まで。4月からは、午前9:00開館)
>>休館日
毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)ただし、4月28日～5月6日は開館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature 〒400-0065 甲府市貢川一丁目5-35 Tel.055-235-8080 Fax.055-226-9032
山梨県立文学館 <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

県政だより「ふれあい」についてのご意見やご要望をお寄せください

広聴広報課 TEL:055-223-1339 FAX:055-223-1525

E-Mail:kouho@pref.yamanashi.lg.jp URL:<http://www.pref.yamanashi.jp/>